

農村伝道神学校後援会だより NO. 133

長い月日の伝道があった



八丈島教会牧師
萩野英夫
(第62回卒)

「御沙汰である。以上3名の者、伊豆（八丈島）に遠となす」。映画のセリフでは大岡越前守が出てきて御白州という光景です。江戸時代から明治まで約1,800人流され、800人放免、1,000人は島の土と化しました。土分以上の者、思想犯が多く、島での役所の仕事をさせられていたそうです。南町奉行所は現在の有楽町の駅前がありました。私はときどき、銀座のキリスト教書店に行くときにこの光景が頭に浮かび、そして、現代の世の中に戻ります。今の私の赴任先は「八丈島教会」。私は60歳の誕生日を間近にして、農村伝道神学校に入学しました。学校の学びは40年ぶりくらいになりました。仙台、函館、札幌と高校を卒業後、勤務先を転々としました。そして、市長、国会議員の私設秘書、クリスチャンセンター、札幌北光教会の書記等を経験しました。あるとき、木曜短時間礼拝で牧師の説教を聞いて、もっと聖書の内容を詳しく分かりたいと思って牧師になる決心をしました。

私は今までの人生を考えると、「島（しま）」に縁があります。当時の仙台は東京以北の北の営業所（独身者の島流し）、かつて「島」と呼ばれた北海道、香川県「小豆島の内海教会」。このようなことを考えると、その都度、神様が「島に私を遣わした」、そして与えてくれていたと思うのです。農伝は島ではないですが、人里離れた（？）山の頂上（タクシ一運転手さんが言っていた）、閑散とした静かな場所です。勉強をするのには「完璧に近い環境」でし

た。授業には大変苦勞しました。授業の内容というのではなく、どのように単位を取得するかが分かりませんでした。そして、4、5人で受ける授業も初めてでしたが、私の好きな語学はとても心地良く、ギリシャ語は3年間も授業を受けました。

現在の八丈島の現状は八丈島から羽田空港へは40分くらいです（通勤圏）。船は竹芝桟橋から11時間（欠航が多い）。実際に住んでいる人は3,700人。漁業は海流の変化で魚が獲れなくなり休業状態で、本州の「大洗」、「勝田」あたりから魚がきています。コンビニはありません。そのような不便さの島に八丈島教会があります。かつての先達は、古くは宣教師が「伊豆諸島の開拓伝道」で教会が誕生しました。1937年、バプテスト教会の杉田亀久夫兄が開設しました。2023年現在、教会員は13名。礼拝は4、5名。奏楽者は昨年度結婚してしまい、現在はいません。前奏と後奏は私がなんとか頑張って奏楽しています。八丈島への観光客の方の出席がときどきあります。教会員は少なくなりましたが、先に伝道した先達たちを思って教会を大事に維持していきたいと思えます。

また、八丈島教会を支援する委員会があります。伊豆伝道委員会です。東京教区東支区に属し、伊豆諸島の八丈島、新島、三宅島、東支区の諸教会が集まって連携を深めています。島特有の会議で本土とは少し違った雰囲気を感じます。

かつて私は神学生でした。神学生のときのことを思い出します。そのときの経験から、神学生の応援として「パソコン購入基金」「神学書購入基金」「聖書、讃美歌基金」など、後援者から現品や購入資金を登録してもらって、その都度、神学生に応援できないだろうかと思うのです。実現したら、学びが充実したものになると思います。



八丈島教会

まちだ里のマルシェ

朝起きると雨音。メールでは「中止の連絡は入っておりません」と。このイベントに関わる人たちの熱い想いが伝わるようでした。町田に着くころには雨はすっかり上がり、2023年5月20日(土)、まちだ里のマルシェ無事開幕です。ブースではいろいろな販売、中央には5匹の羊と兎が戯れ、場を盛り上げます。子どもたちはポニーの乗馬をし、メイン会場以外にもアイデアセンター浮輪寮、のづた里山の家、ぱんだ幼稚園でお客様がくつろぎます。我が農村伝道神学校後援会もグッズ販売で参加です。今年は夏梅委員発案のレモンガラスティーの試飲とジャムの試食が上々の評判でした。農村伝道神学校が近くにあり、どんな学校か興味があったと聞かれる方もおられました。

まちだ里のマルシェのプリントには「よいものつくって届けたい」「ここでたくさんの人たちと繋がっていききたい」と記され、この想いに象徴されるような温かいほんわかするような会場の雰囲気は天候など関係なく、それぞれの「届けたい」という溢れる思いが交差するような空間であったように思います。 池田昌功(3年生)



まちだ里のマルシェにて。左から2人目が筆者。後列の右から2人目が吉川拓実(4年生)、3人目が平良愛香校長。© arata

神学校で「みんなのマルシェ and 夏祭り」

クローバーの会は、鶴川シオン幼稚園保護者有志によるサークルで、子どもたち・保護者・神学校・幼稚園を結び支えたいと、活動を行っています。3月に開催予定だったマルシェが雨で中止になってしまい、夏休み最初の日曜日の7月23日午後、マルシェと夏祭りを同時開催しました。小さな「店長さん」たちが手作り品やリユース品を販売したり、ヨーヨー釣り・スタンプラリー・ワークショップのお店を開きました。クローバーの会では盥で冷やしたラムネや水鉄砲を販売しました。フリースクールはちゅやくさんの庭も開放していただき、大きなプールやアスレチック・射的など、大いに楽しみました。農伝産ルバーブジャムの販売もありました。よく晴れた日でしたが、日陰には涼しい風が吹き、子どもたちは水と汗でびしょりになって走り回り、夕方、片づけをするころには虫の聲も聞こえてきました。夏の午後を満喫した一日となりました。

今後も四季折々の神学校の姿を体感してもらいたく、クローバーの会では10月にもイベントを計画しています。 加藤久美子(クローバーの会)



みんなのマルシェ and 夏祭りにて。楽しそうに参加する子どもたち。

農場のいま①

ナラ枯れから環境改善へ

農村伝道神学校敷地内に自生している、ナラ、クヌギ、サクラ、その他大きな樹木から次々と枯れてしまい、ナラ、クヌギは全体の7、8割程度が失われてしまった。今年の夏はその残された樹木のうちの何本かが枯れ、葉をつけず、もしくは茶色く変色した葉をつけた枝を伸ばしたままの木々が、やがて朽ちてゆくのを待っている。景色が変わり、ずいぶんと木陰が減った。農伝に集まってきた鳥の数も減り、姿



ナラ枯れによる倒木。

を見かけなくなってしまったものもいる。おそらく虫も、そして苔や菌類、あるいは目には見えない微生物、これら樹木を住処としていたものたちも同様ではないだろうか。代わって竹、笹、アオキなどの浅く根を張る植物の浸食が目立つ。地中深くまで根を張る樹木が衰退し、浅く根を張るものが繁茂するということは、地中深くまで水が循環せず、土の乾燥化が進んできていることを意味しているだろう。衰弱した樹木たちは抵抗力を失い、カシノナガキクイムシの侵入を許し、この虫が保菌しているナラ菌に感染して、近年関東圏で流行している「ナラ枯れ」という現象を引き起こしている。また、

樹木の枯れによる倒木や枝落ちは事故の危険が伴うので、農伝では環境改善に向けた働きを新たに検討している。

10月には講師の方をお呼びして、コンクリートのU字溝によって排水されてしまっていた雨水を土に浸透させていく「枝がら（しがら）」という伝統的な造作を学ぶ。分からないことも多く模索中ではあるが、皆さんの協力を得て進めていきたい。

松本吉氏光（まつもと・よしてる）（農場担当）



倒木の根。

農場のいま② 農伝産ルバーブジャムができるまで

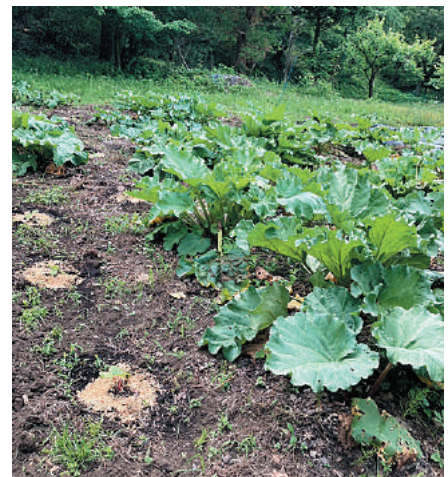
このたび、農村伝道神学校後援会は皆さまにルバーブジャム（P4参照）をお届けします。農村伝道神学校とルバーブの関係については、ルバーブジャムに付けたチラシ（「どうして『ロブさん』なの？」）に説明がなされています。ご一読ください。カナダから長野、北海道、そして農伝までルバーブを辿ることができます。

直接、ルバーブの栽培を行ったのは農場担当職員の松本吉氏光さん



ルバーブ収穫。前列左から深沢新明（1年生）、角川太郎（2年生）、松本吉氏光（農場担当）

です。1年生のときに種をアジア学院から提供してもらい苗に育て、農場に植え、2年目から収穫できるようになりました。5年目のいまはルバーブ畑も広がりました（写真右）。その間、池迫直人先生と神学生の支援を受けながら、後援会のメンバーも畑に立ちました。ウイットマー圭子さん、瀬戸英治教師とともに、ルバーブジャムの試作と研究を重ねました。毎年、種を採り苗に育て、植えていきます。



ルバーブ畑。2年目のルバーブ（右）と苗植え（左）。

今年の夏、農業実習で神学生と松本さんらが収穫（写真左）、午後からは後援会のメンバーやボランティア募集に応えてくれた農伝ボランティアが加わり、ジャム作りを行い、酸味のあるルバーブジャムを完成した次第です。皆さまとルバーブジャムを共食し、農村伝道神学校が支えられることを期待しています。

夏梅文和（後援会実務委員）

2023年度 農村伝道神学校後援会会計報告

2023年5月7日～2023年9月15日()内の数字は回数で、金額はその合計です。

Table with columns for donor categories (後援献金), names, and amounts. Includes sub-sections for '記念日他献金' and 'ひとつぶ献金'.

♪農伝支援コンサート [於 まぶね教会：神奈川県川崎市] 2024年3月2日(土)午後開催予定。チラシができましたら、ご希望の方にお送りします。*下記の農伝後援会までご連絡ください。

農伝産ルバーブジャム 190 g 450円 「農村伝道神学校とルバーブの関係」リーフ付き 農伝野草木茶(ビワの葉茶) 30 g 330円、農伝ぎんなん 150 g 200円。 *ご注文は、下記の農伝後援会へご連絡ください。《代金+送料》払込票を同封し、お送りします。 *11/18(土)10時～14時 農伝グラウンドにて「まちだ里のマルシェ」に参加します!ぜひ遊びにおいでください。



事務局だより

今年は猛暑日が多く、農伝の栗、柿、銀杏にも影響を及ぼしています。例年ですと、この9月の上旬には栗は木の枝で熟成中なのに、今年は完全に熟成せず落下しています。反対に銀杏は例年は熟成して落下しているはずなのに、まだ枝にしがみついています。異常気象は、いろいろな事柄に影響を及ぼしています。そんな中でも農伝が自然と共存し、先駆者が築き上げてきた文化・財産を時代の変化に合わせて、柔軟に適応して後輩に引き継いで行けるよう、わたしは思っています。今年は麦とルバーブとブルーベ

リーを作付けし、ルバーブジャムとブルーベリージャムの商品化ができました。ご希望の方はご連絡ください。後援会では、自然を生かした農伝支援グッズを日々考えています。神からのタレントを一人一人出し合っ、各人が負担にならない程度に、自分のできる範囲で後援会活動に注力しています。「後援会だより」を読まれているあなたに、お願いします。あなたのタレントを農伝に注いでください。アイデア・ご意見をお待ちしています。

あなたのタレントで農伝を支えて頂ければ幸いです。 沼田弘行(実務会陪席)

2023年度後援会会計報告

2023年4月1日～2023年8月31日現在

Table with columns for '収入(献金・他)', '2023年度(4月～8月)', '前年度同期', and '前年同期比(%)'. Rows include '後援献金(団体)', '後援献金(個人)', '記念日他献金(団体)', '記念日他献金(個人)', 'ひとつぶ献金(団体)', 'グッズ/コンサート', and '合計'.

発行 農村伝道神学校後援会 会長 島しづ子 事務局長 長谷川りゑ子 〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711 Eメール: 後援会 kouenkai@noden.ac.jp 農村伝道神学校 noden@pony.ocn.ne.jp ホームページ: https://noden.ac.jp/ 郵便振替口座 加入者名: 学校法人鶴川学院 00140-7-635524